

第33回日本パラスポーツ学会

筑波大学医学医療系リハビリテーション医学 清水如代

2025年1月25～26日、茨城県立医療大学にて第33回日本パラスポーツ学会（六崎裕高大会長）を開催しましたので事務局よりご報告いたします。最寄駅からバスで30分と不便な中、189名にご参加いただきました。「Athlete Centered Para Sports」をテーマに、医師、療法士、研究者、パラアスリートによる活発な議論が交わされました。羽田康司教授（筑波大学）による「パラスポーツの医学サポート～これまでとこれから～」、中島幸則教授（筑波技術大学）による『「東京2025デフリンピック」を通じた共生社会の実現」の特別講演に加え、国際クラシファイアを迎えたシンポジウム「クラス分けの現場と課題：Evidence-Based Classificationを目指して」などを通じ、歴史や課題、今後の展望について深く学ぶ機会となりました。

また、茨城県障がい者スポーツ研究会との共催シンポジウム「パラアスリートの声 共生社会を目指して」では5名のパラアスリートが登壇し、練習環境や試合

スタッフ一同記念写真



茨城県障がい者スポーツ研究会との共催シンポジウム「パラアスリートの声 共生社会を目指して」

前のルーティンなど、世界で活躍するための工夫を共有いただきました。さらに、一般社団法人シッティングスポーツ協会によるパラスポーツ体験会も実施され、茨城県色豊かな学会となりました。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

第13回日本がんリハビリテーション研究会

鹿児島市立病院リハビリテーション部 鶴川俊洋

第13回日本がんリハビリテーション研究会（四国がんセンター、杉原進介大会長）が2025年3月22～23日に愛媛大学城北キャンパス（松山市）で約300名を集めて開催されました。

「がんリハビリテーションにおける多職種連携と多診療科連携の課題と展望」をメインテーマに3会場でプログラムが組まれました。杉原大会長の講演では日頃の臨床で生じる様々なギャップや悩み事が赤裸々に語られ、基調講演では辻哲也理事長（慶應義塾大学）から日本がんリハビリテーション研究会の今後の方向性が示されました。交互開催方式による年次日韓合同シンポジウムは「Recent Advances in Cancer Rehabilitation」のテーマで4講演が披露され、韓国サイドからのReactor Panelistも交えて、熱い質疑が交わされました。2日間でシンポジウム2、パネルディスカッション3、教育講演4、一般演題81、など熱心な討論が展開されました。四国の各病院から選出された各演者の講演は興味深いものが多く、杉原大会長が各会場で積極的に質問され、その回答を実臨床に生かそうと

杉原大会長の開会挨拶



日韓合同シンポジウムの様子

する姿勢も印象的でした。

本研究会は2025年4月に「日本がんリハビリテーション学会」として新たな歴史を刻み、次回は2026年2月28日～3月1日にGメッセ群馬（高崎市）で篠田裕介大会長（埼玉医科大学）のもと「原点回帰」をテーマに第14回日本がんリハビリテーション学会学術集会として開催されます。是非ご参加ください。